

その4 甲斐田

(平成4年11月1日号—第160号)

府道杉田口禁野線をどんどん東へ歩いていくと小松製作所^{*1}の大きな門を過ぎたあたりから急に道幅が狭くなってきます^{*2}。すれ違うバスに気をつけ、さらに進むと、須山町のバス停がある少し開けたところに出ます。このあたりが甲斐田[かいた]です。



5 甲斐田町

旧の甲斐田は、上野・新之栄・須山にまで及ぶ大きな村でしたが、現在の住居表示で残っているのは、甲斐田町、甲斐田新町、甲斐田東町だけです。

甲斐田の由来には諸説が伝えられています。甲斐の山という相撲取りが、勝ったほうびにもらった土地だとか、甲斐の武田氏の出身者が地主になったからだとか、山と山との間の狭い田という意味の峡田[かいた]からきているとか。しかし、どれも決め手になるものはありません。甲斐田町の道路は、いずれも細く曲がりくねっており、集落の周辺には外壕のような川があり、西の口、北の口など、村の出入口のような小字地名が残っています。これは外敵から集落を守るための地形をとっていたことを物語っています。



6 長泉寺(甲斐田町)

甲斐田の村には、長者伝説があります。甲斐田町の長泉寺には、長者の屋敷に祭られていたという甲斐田仏と呼ばれる阿弥陀様が今も祭られています。

^{*1} 現関西外国語大学。

^{*2} 近年、拡張されている。